

令和 7 年度
第 2 回 阿倍野区民アンケート調査
「阿倍野区の実施にかかるアンケート」
報告書

令和 8 年 3 月

大阪市阿倍野区役所

目次

I. 調査概要.....	1
1-1 調査目的.....	1
1-2 調査方法.....	1
1-3 調査内容.....	1
1-4 回収結果.....	2
1-5 調査結果の見方.....	2
1-6 標本誤差.....	3
1-7 標本の代表性.....	4
II. 調査結果.....	5
1.区民の防災力向上.....	5
【問1】家族内における災害に対する日ごろの備えに関する話し合い状況.....	5
【問2】自己の災害に対する日ごろの備え状況.....	7
2.防犯に関する取組.....	9
【問3】防犯啓発活動に対する感じ方.....	9
3.犯罪や交通事故を防ぐまちづくり.....	11
【問4】交通安全教育に対する感じ方.....	11
【問5】防犯・交通安全の各種取組に対する総合的な評価.....	13
4.放置自転車に関する取組.....	15
【問6】区内駅周辺における駐輪場の認知状況.....	15
5.魅力あふれるまちづくり.....	17
【問7】魅力発信に対する感じ方.....	17
【問8】魅力あるまちに対する感じ方.....	19
6.あべの筋の魅力づくり.....	21
【問9】阪堺電車の軌道部分の芝生に対する感じ方.....	21
7.みんなで支え合う地域づくりと相談支援体制づくり.....	23
【問10】必要な支援が行き届く地域社会に対する感じ方.....	23
8.子育て支援事業の充実.....	25
【問11】子育て支援事業やカウンセリング事業への参加状況.....	25
【問12】不登校に関する相談事業の認知状況.....	27
9.地域ぐるみで、誰もが元気に暮らせる健康づくり.....	28
【問13】運動習慣の頻度.....	28
10.官民連携の一層の強化.....	30
【問14】官民連携による地域活性化等への影響に対する感じ方.....	30
11.SDGsの推進.....	32
【問15】SDGsの認知状況.....	32
【問16】SDGsゴールの認知状況.....	34

【問17】SDGs ゴールの認知手段	35
12.「2025年大阪・関西万博」について	37
【問18】「2025年大阪・関西万博」への関心度	37
【問19】「2025年大阪・関西万博」への参加状況	39

I. 調査概要

1-1 調査目的

阿倍野区では、「誰もが住みたい、住み続けたいまち『あべの』の実現」をめざし、「阿倍野区将来ビジョン」・「阿倍野区運営方針」に基づき、さまざまな取組を行っています。

本アンケートを通して、区の事業や取組について広く意見や評価をいただくことで区民ニーズを把握し、今後の阿倍野区政に反映していくための貴重な情報として活用することを目的としています。

1-2 調査方法

調査区域 阿倍野区全域

調査対象 阿倍野区内在住の18歳以上の方で、住民基本台帳から無作為に抽出した方(1,300名)

調査期間 令和7年12月8日(月)～令和8年1月9日(金)

調査方法 調査票の送付による配布、返送用封筒・大阪市行政オンラインシステムによる回収

1-3 調査内容

本調査の内容は、以下の調査項目のとおりです。

1. 区民の防災力向上

【問1】家族内における災害に対する日ごろの備えに関する話し合い状況

【問2】自己の災害に対する日ごろの備え状況

2. 防犯に関する取組

【問3】防犯啓発活動に対する感じ方

3. 犯罪や交通事故を防ぐまちづくり

【問4】交通安全教育に対する感じ方

【問5】防犯・交通安全の各種取組に対する総合的な評価

4. 放置自転車に関する取組

【問6】区内駅周辺における駐輪場の認知状況

5. 魅力あふれるまちづくり

【問7】魅力発信に対する感じ方

【問8】魅力あるまちに対する感じ方

6. あべの筋の魅力づくり

【問9】阪堺電車の軌道部分の芝生に対する感じ方

7. みんなで支え合う地域づくりと相談支援体制づくり

【問10】必要な支援が行き届く地域社会に対する感じ方

8. 子育て支援事業の充実

【問11】子育て支援事業やカウンセリング事業への参加状況

【問12】不登校に関する相談事業の認知状況

9. 地域ぐるみで、誰もが元気に暮らせる健康づくり

【問13】運動習慣の頻度

10.官民連携の一層の強化

【問14】官民連携による地域活性化等への影響に対する感じ方

11.SDGs の推進

【問15】SDGs の認知状況

【問16】SDGs ゴールの認知状況

【問17】SDGs ゴールの認知手段

12.「2025年大阪・関西万博」について

【問18】「2025年大阪・関西万博」への関心度

【問19】「2025年大阪・関西万博」への参加状況

1-4 回収結果

1. 配布総数 :1,300 件
2. 回収総数 :700 件 回収率:54.0% (送付:352 件、オンライン:348 件)
3. 有効回収数:691 件 有効回収率:53.3% (送付:347 件、オンライン:344 件)
4. 配布・回収結果は以下のとおり

	アンケート送付数	有効回答者数	回収率
18～34 歳	336	131	39.0%
35～64 歳	714	385	53.9%
65 歳以上	250	175	70.0%
総計	1,300	691	53.3%

※回収数は 700 件でしたが、無効回答が 9 件あったため、有効回収数は 691 件としました。

※回収率及び有効回収率は、配布総数から宛先不明で返送された 4 件を差し引いた 1,296 件を基に算出しました。

1-5 調査結果の見方

- 特にことわりのない場合は全て複数の選択肢から 1 つだけを選択して回答する問となっています。
- 集計結果はすべて、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。このため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても構成比の合計が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ形式)の場合、回答は選択肢の有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、集計の合計は 100%を超える場合があります。
- 図表やグラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- 図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 自由記述による回答については、一部、抜粋としました。また、わかりやすくするため、要約を記載する場合があります。
- アンケートにおいて、年齢別のクロス集計を行うため、また送付による回答とオンラインによる回答の重複集計を防ぐため、4桁の番号を附番しておりましたが、回答者個人を特定する目的ではありません。

1-6 標本誤差

今回の調査は標本調査として実施しています。そのため、標本による測定値(調査の結果)と真の値(母集団を全数調査すれば得られるはずの数値)との間に誤差が生じることがあります。この誤差を標本誤差といいます。標本誤差は、標本による測定値に基づいて、母集団値を推定するときの誤差の目安となります。

無作為抽出法を用いた場合の標本誤差(信頼度 95%とした場合)については次の式で算出できますが、今回の調査結果は後述する「標本の代表性」で述べる通り、標本(回答者集団)は各年齢区分間において母集団に対する代表性を有しないと判断されるため、標本誤差以外に大きな非標本誤差が発生している可能性が高く、本調査の結果を母比率の推定値として用いる場合にはこの点に留意する必要があります。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{P \times (1-P)}{n}} \quad (n = \text{標本の大きさ(回答者数)}, P = \text{回答比率})$$

■年齢別 回答比率ごとの標本誤差

(単位:%)

標本誤差 (単位:%)		回答比率 (p) 回答者数 (n)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	50%
			95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	50%
全体		691	1.6	2.2	2.7	3.0	3.2	3.4	3.6	3.7	3.7
年齢別	18~34 歳	131	3.7	5.1	6.1	6.8	7.4	7.8	8.2	8.4	8.6
	35~64 歳	385	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.8	4.9	5.0
	65 歳~	175	3.2	4.4	5.3	5.9	6.4	6.8	7.1	7.3	7.4

例えば、問9の「あなたは、阪堺電車の軌道部分の芝生について、『まちの魅力の一つである』と感ずるか。」の結果を見ると、「感じる計(「感じる」+「どちらかといえば感じる」)は全体で 70.9%となっており、ここから導き出される標本誤差の数値は、表にある最も近い値(70%)の±3.4%です。

つまり、母集団を対象に本調査を行ったところ、「感じる計」の全体が 70.9%の前後3.4%の区間内、すなわち 67.5%~74.3%の区間内にあることが 95%の信頼度で期待されるということを意味しています。

1-7 標本の代表性

母比率の推定などの統計的推定を行うためには、標本(回答者集団)が母集団に対する代表性を有している必要があります。この点について検証するため、カイ二乗検定により適合度検定を行います。検定する仮説は次のとおりです。

(帰無仮説)標本は母集団に対する代表性を有する(偏りが無い)

(対立仮説)標本は母集団に対する代表性を有しない(偏りがある)

有意水準は5%に設定し、検定から得られるP値が有意水準を下回るか、つまり検定統計量(カイ二乗値 χ^2)が上側確率5%点を上回り、棄却域に入るかどうかで判断します。

(なお、有意水準は「判断が誤っていることをどの程度まで許容するか」を決める基準で事前に決定します。これを5%にするということは、判断が誤っている確率を5%までは許容するということです。また、P値は「帰無仮説が正しいとした場合に、観測された状態を含め、より極端な状態が観測される確率」です。今回の帰無仮説は「標本は母集団に対する代表性を有する」です。これは「標本は母集団から無作為抽出されたものである」と同義ですので、P値は「母集団から無作為に抽出した場合に、回答者集団のような偏りを含め、もっと偏った集団が抽出される確率」ということになります。)

■母集団の大きさ(N) (単位:人)

18歳~34歳	35~64歳	65歳以上	合計
21,619	46,732	27,738	96,089

※2025年9月末日時点の住民基本台帳人口

■有効回答者数(測定値n) (単位:人)

18歳~34歳	35~64歳	65歳以上	合計
131	385	175	691

■適合度検定による検定結果

	検定統計量 (カイ二乗値 χ^2)	上側確率 5%点	P値
年齢区分間	13.979	5.991	0.00092

適合度検定から得られる各年齢区分間における検定統計量(カイ二乗値 χ^2)は 13.979 であり、カイ二乗分布における上側確率5%点の値である 5.991 を上回り棄却域に入る(P値が有意水準を下回る)ことから、帰無仮説が棄却され、対立仮説が採択されます。

つまり、標本は各年齢区分間において母集団に対する代表性を有しない(偏りがある)と判断されるため、本調査結果を母比率の推定値として用いる場合には留意が必要です。

Ⅱ. 調査結果

1.区民の防災力向上

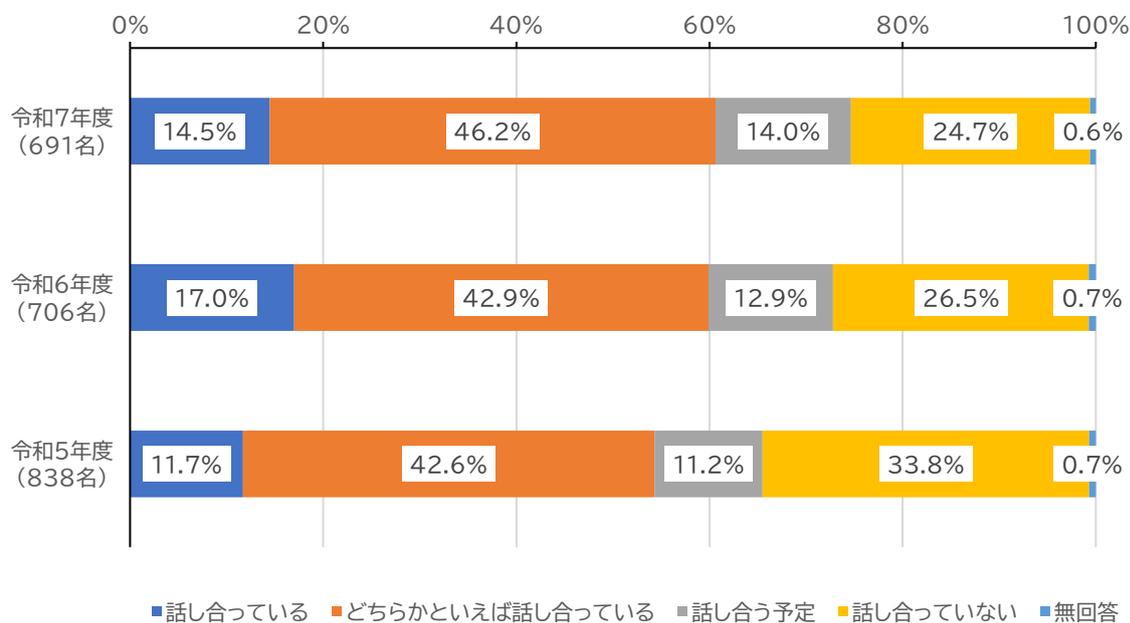
阿倍野区では、「災害対策基本法」、「大阪市地域防災計画」や「阿倍野区地域防災計画」に基づき、関係機関と区民が協働して地域の防災力を高める取組を行っています。

【問1】

あなたは、災害に対する日ごろの備え(※)について、家族で話し合っていますか。

(※)備えの例:水や非常用食料の確保、家族との連絡方法など

	回答者数	話し合っている (a)	どちらかといえば話し合っている (b)	話し合う予定 (c)	話し合っていない (d)	無回答	計	話し合っている計 (a+b)	
全体	691	14.5%	46.2%	14.0%	24.7%	0.6%	100.0%	60.7%	
年齢別	18～34 歳	131	14.5%	40.5%	19.1%	25.9%	0.0%	100.0%	55.0%
	35～64 歳	385	11.7%	50.4%	13.0%	24.7%	0.2%	100.0%	62.1%
	65 歳～	175	20.6%	41.1%	12.6%	24.0%	1.7%	100.0%	61.7%



■ 全体

「話し合っている」14.5%、「どちらかといえば話し合っている」46.2%を合わせた「話し合っている計」は60.7%に対し、「話し合っていない」が24.7%と、「話し合っている計」が36.0ポイント上回っています。

■ 経年変化

「話し合っている」「どちらかといえば話し合っている」を合わせた「話し合っている計」で経年変化を見ると、令和7年度が60.7%と最も多く、次いで令和6年度が59.9%、令和5年度が54.3%となっています。また、「話し合う予定」では、令和7年度が14.0%と最も多く、次いで令和6年度が12.9%、令和5年度が11.2%となっています。

したがって、「話し合っている計」及び「話し合う予定」の割合が年々増加傾向にあります。

■ 年齢別

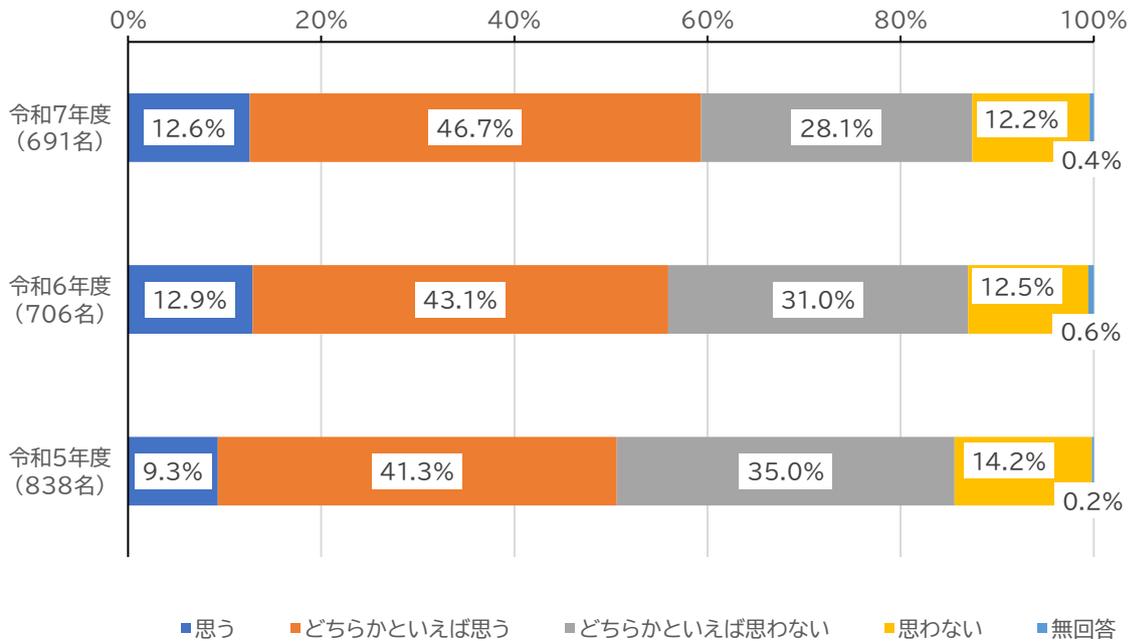
「話し合っている」「どちらかといえば話し合っている」を合わせた「話し合っている計」を年齢別で比較すると、35～64歳が62.1%と最も多く、次いで、65歳以上が61.7%、18～34歳が55.0%となっています。

【問2】

災害に対する日ごろの備え(※)ができていますか。

(※)備えの例:水や非常用食料の確保、家族との連絡方法など

		回答者数	思う (a)	どちらか といえば 思う (b)	どちらか といえば 思わない (c)	思わない (d)	無回答	計	思う 計 (a+b)	思わない 計 (c+d)
全体		691	12.6%	46.7%	28.1%	12.2%	0.4%	100.0%	59.3%	40.3%
年齢別	18～34 歳	131	15.3%	43.5%	25.2%	16.0%	0.0%	100.0%	58.8%	41.2%
	35～64 歳	385	9.1%	46.7%	32.2%	11.7%	0.3%	100.0%	55.8%	43.9%
	65 歳～	175	18.3%	49.1%	21.1%	10.3%	1.1%	100.0%	67.4%	31.4%



■ 全体

「思う」12.6%、「どちらかといえば思う」46.7%を合わせた「思う計」が 59.3%に対し、「どちらかといえば思わない」28.1%、「思わない」12.2%を合わせた「思わない計」は 40.3%と、「思う計」が 19.0 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた「思う計」で経年変化を見ると、令和7年度が59.3%と最も多く、次いで令和6年度が56.0%、令和5年度が50.6%となっており、年々増加傾向にあります。一方、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせた「思わない計」は、令和5年度が49.2%と最も多く、次いで令和6年度が43.5%、令和7年度は40.3%となっています。

■ 年齢別

65 歳以上では「思う計」が 67.4%と最も多く、次いで 18～34歳が 58.8%、35～64歳が 55.8%となっています。いずれの年齢でも、災害に対する日ごろの備えができていると「思う」割合が「思わない」割合よりも多くなっています。

2.防犯に関する取組

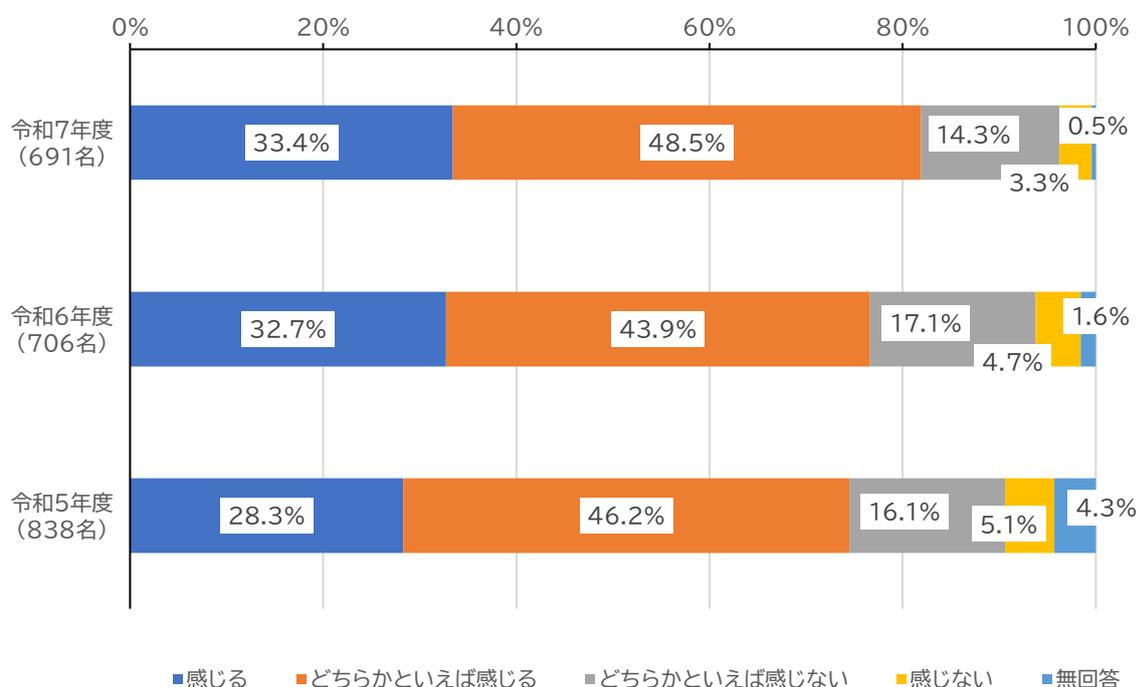
阿倍野区では、警察などと地域みまもり隊が連携して、高齢者が特殊詐欺被害にあわないために、自動通話録音機を貸与したり、講座を開いたりしています。また、子どもが犯罪に巻き込まれないように、自分を守る力を育むための紙芝居や映像を使った出前講座も行っています。

さらに、犯罪を防ぐために、通学路を中心にしたパトロールや「こども 110 番の家」の啓発活動、防犯関連グッズの配布などの取組も行っています。

【問3】

このような防犯啓発活動に関する各種取組は、区民の安全安心のため、街頭犯罪抑止に役立っていると感じますか。

	回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)	
全体	691	33.4%	48.5%	14.3%	3.3%	0.5%	100.0%	81.9%	17.6%	
年齢別	18～34 歳	131	38.2%	48.9%	9.1%	3.8%	0.0%	100.0%	87.1%	12.9%
	35～64 歳	385	28.6%	52.7%	15.6%	2.9%	0.2%	100.0%	81.3%	18.5%
	65 歳～	175	40.6%	38.9%	15.4%	4.0%	1.1%	100.0%	79.5%	19.4%



■ 全体

「感じる」33.4%、「どちらかといえば感じる」48.5%を合わせた「感じる計」が 81.9%に対し、「どちらかといえば感じない」14.3%、「感じない」3.3%を合わせた「感じない計」は 17.6%となっています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 81.9%と最も多く、次いで令和 6 年度が 76.6%、令和5年度が 74.5%となっており、年々増加傾向にあります。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 87.1%と最も多く、次いで 35～64 歳が 81.3%、65 歳以上が 79.5%となっており、年齢が低いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

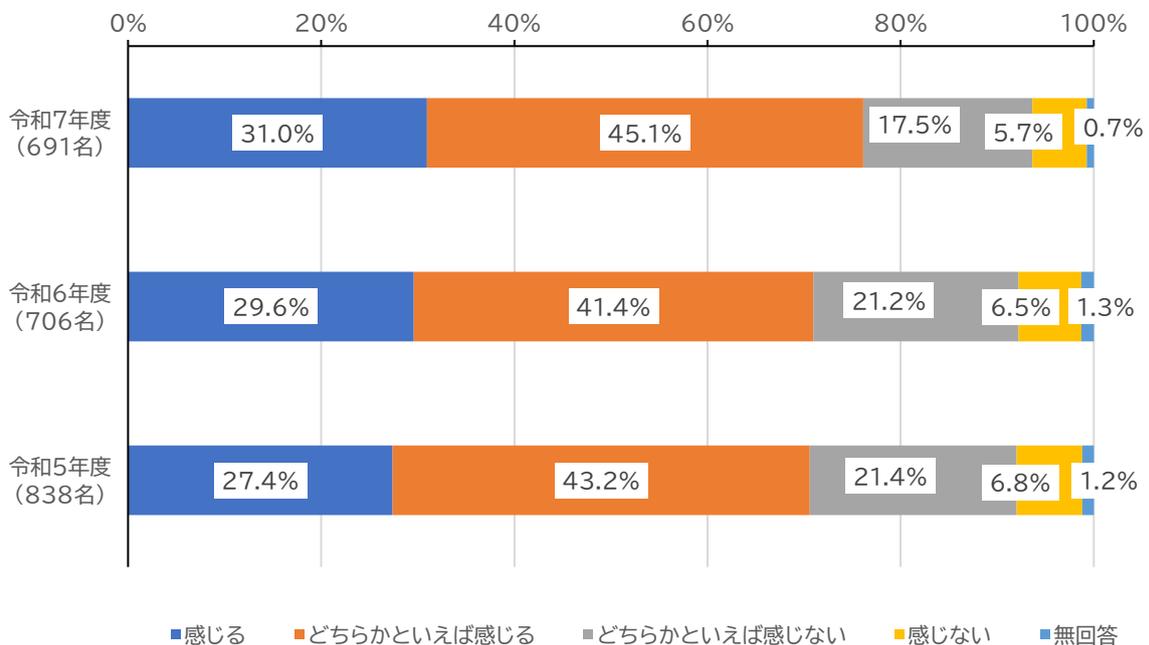
3.犯罪や交通事故を防ぐまちづくり

阿倍野区では、交通事故を防ぐために警察などと連携し、幼稚園や小学校で交通安全教室や、YouTubeで「交通安全教室」の動画の配信を行っています。また、「歩道での自転車マナーを守りましょう!」という動画の配信や広報紙への掲載を通じて、自転車のヘルメット着用について啓発するなど、さまざまな方法により交通安全の教育に取り組んでいます。

【問4】

このような交通安全教育に関する各種取組は、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解の向上に役立っていると感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	31.0%	45.1%	17.5%	5.7%	0.7%	100.0%	76.1%	23.2%
年齢別	18～34 歳	131	30.6%	49.6%	11.4%	8.4%	0.0%	100.0%	80.2%	19.8%
	35～64 歳	385	27.5%	49.4%	17.9%	4.9%	0.3%	100.0%	76.9%	22.8%
	65 歳～	175	38.9%	32.6%	21.1%	5.1%	2.3%	100.0%	71.5%	26.2%



■ 全体

「感じる」31.0%、「どちらかといえば感じる」45.1%を合わせた「感じる計」は 76.1%に対し、「どちらかといえば感じない」17.5%、「感じない」5.7%を合わせた「感じない計」は 23.2%となっています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 76.1%と最も多く、次いで令和 6 年度が 71.0%、令和 5 年度は 70.6%となっており、年々増加傾向にあります。

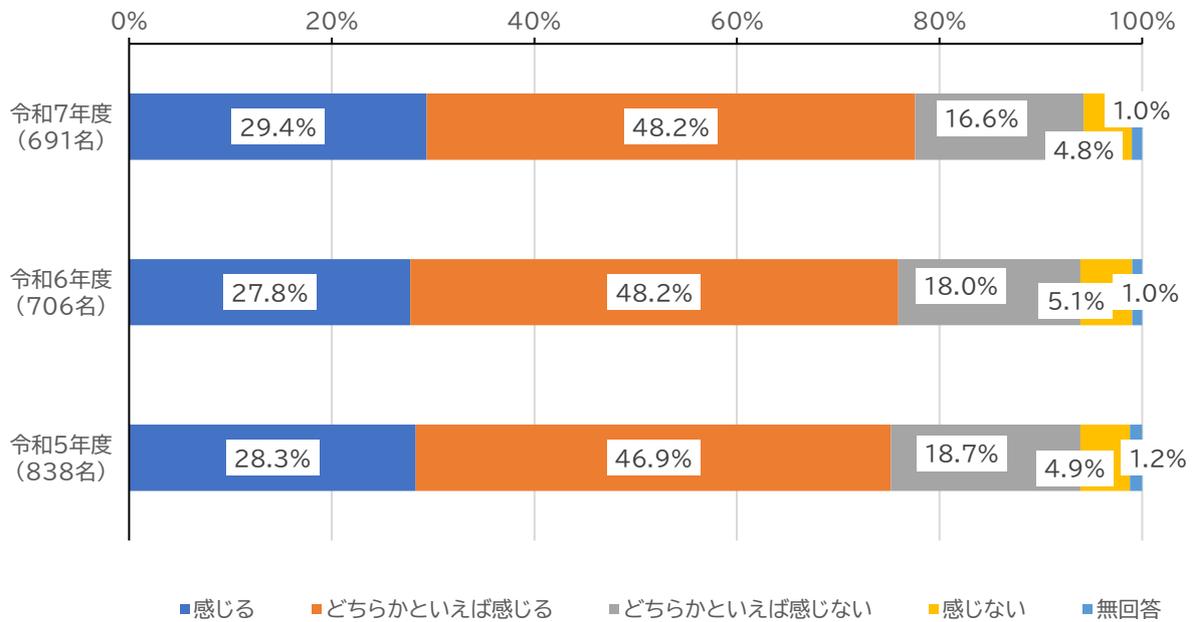
■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34歳が 80.2%と最も多く、次いで 35～64歳が 76.9%、65歳以上が 71.5%となっており、年齢が低いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

【問5】

問3～4のような、警察などと連携して行う防犯・交通安全の各種取組は、総合的に見て、犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	29.4%	48.2%	16.6%	4.8%	1.0%	100.0%	77.6%	21.4%
年齢別	18～34 歳	131	29.8%	51.9%	12.2%	6.1%	0.0%	100.0%	81.7%	18.3%
	35～64 歳	385	27.3%	51.9%	15.3%	4.7%	0.8%	100.0%	79.2%	20.0%
	65 歳～	175	33.7%	37.1%	22.9%	4.0%	2.3%	100.0%	70.8%	26.9%



■ 全体

「感じる」29.4%、「どちらかといえば感じる」48.2%を合わせた「感じる計」は 77.6%に対し、「どちらかといえば感じない」16.6%、「感じない」4.8%を合わせた「感じない計」は 21.4%となっています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 77.6%と最も多く、次いで令和 6 年度が 76.0%、令和 5 年度が 75.2%となっており、年々増加傾向にあります。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 81.7%と最も多く、次いで 35～64 歳が 79.2%、65 歳以上が 70.8%となっており、年齢が低いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

4.放置自転車に関する取組

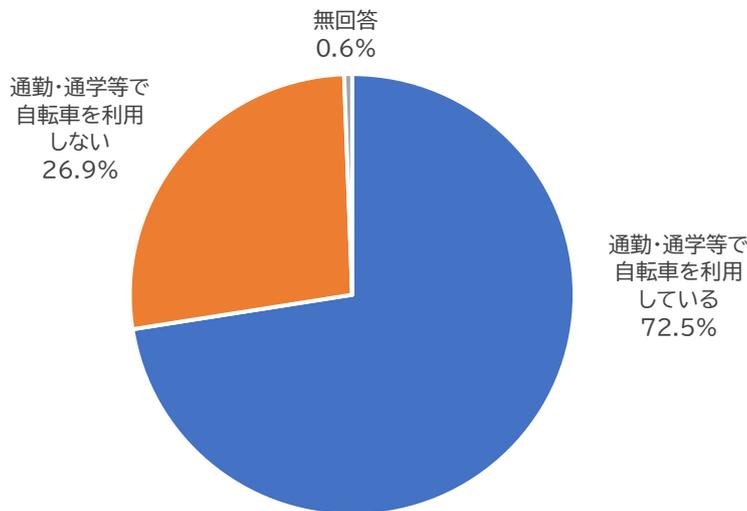
阿倍野区では、地域の住民の方々や企業と協働し、区内の駅周辺で放置自転車解消や自転車マナー向上に向けた啓発活動を行っています。

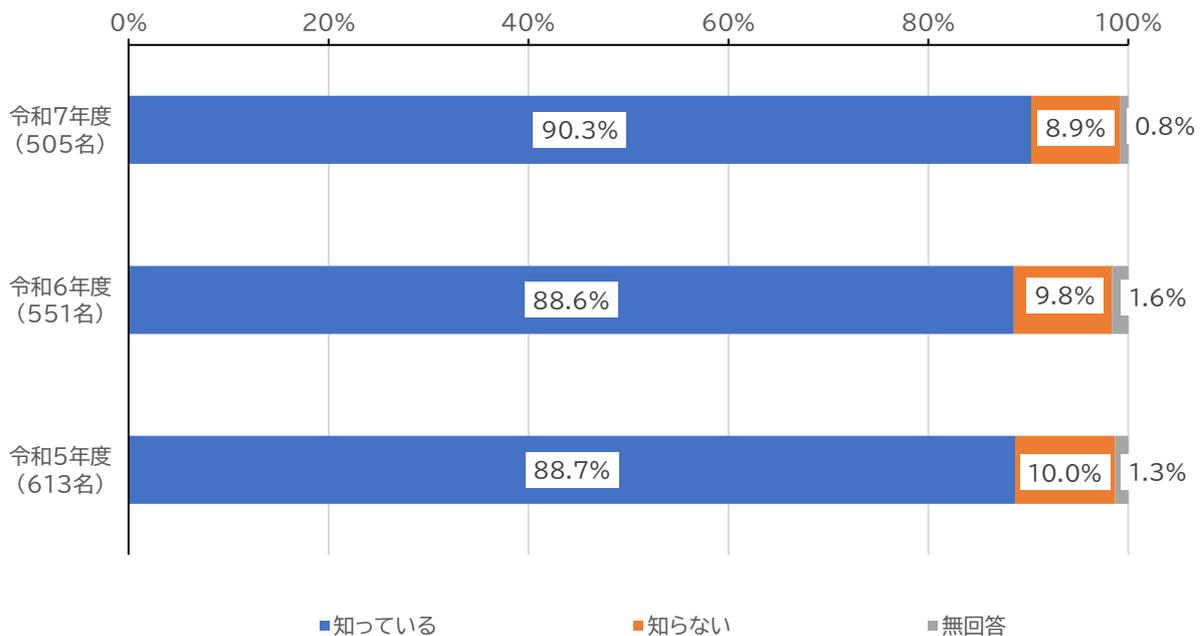
【問6】

あなたは、日ごろ通勤・通学等で利用する区内の駅周辺における駐輪場の場所を知っていますか。

		回答者数	知っている	知らない	通勤・通学等で 自転車を利用 しない	無回答	計	通勤・通学等で 自転車を利用 している
全体		691	66.0%	6.5%	26.9%	0.6%	100.0%	72.5%
年齢別	18～34 歳	131	49.6%	9.2%	41.2%	0.0%	100.0%	58.8%
	35～64 歳	385	70.4%	5.5%	23.9%	0.3%	100.0%	75.8%
	65 歳～	175	68.6%	6.9%	22.9%	1.7%	100.0%	75.4%
注)全体		505	90.3%	8.9%		0.8%	100.0%	

「注)全体」は、「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた 505 名を母数にした集計です。





※令和7年度は「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた505名を母数にした集計です。

※令和6年度は「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた551名を母数にした集計です。

※令和5年度は「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた613名を母数にした集計です。

■ 全体

「通勤・通学等で自転車を利用している」は72.5%、「通勤・通学等で自転車を利用しない」は26.9%となっています。

「知っている」は66.0%に対し、「知らない」が6.5%と、「知っている」が59.5ポイント上回っています。また「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた505名を母数にした場合、「知っている」は90.3%に対して、「知らない」が8.9%と、「知っている」が81.4ポイント上回っています。

■ 経年変化

「通勤・通学等で自転車を利用しない」を除いた「知っている」で経年変化を見ると、令和7年度が90.3%と最も多く、次いで令和5年度が88.7%、令和6年度は88.6%となっています。

■ 年齢別

「知っている」を年齢別で比較すると、35～64歳が70.4%と最も多く、次いで、65歳以上が68.6%、18～34歳が49.6%となっています。

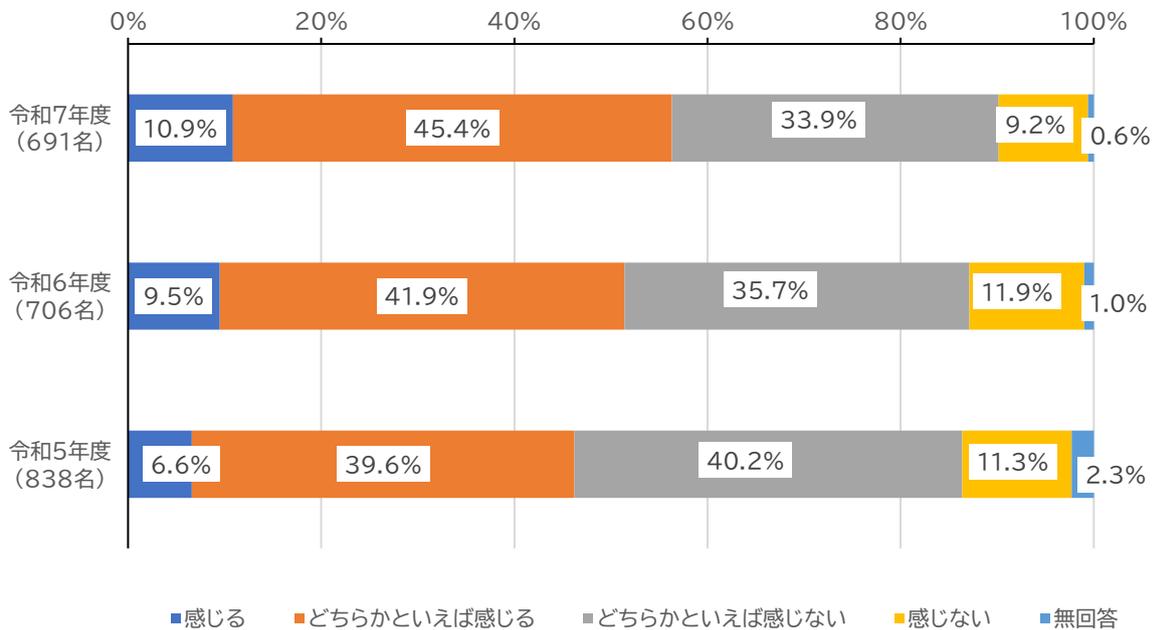
5.魅力あふれるまちづくり

阿倍野区では、区内の都市景観資源や商店街などの魅力情報を「あべのお宝『あべの dakara』』として紹介し、あべのおさんぽマップやおさんぽラリー、デジタルスタンプラリーを通じて、情報を発信しています。また、地域の団体や企業などと連携したイベントなどを行い、まちの魅力をさらに高める取組も行っています。

【問7】

これらの取組によって「あべのの魅力が十分発信できている」と感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	10.9%	45.4%	33.9%	9.2%	0.6%	100.0%	56.3%	43.1%
年齢別	18～34 歳	131	11.5%	45.0%	32.8%	10.7%	0.0%	100.0%	56.5%	43.5%
	35～64 歳	385	11.4%	47.6%	31.9%	8.8%	0.3%	100.0%	59.0%	40.7%
	65 歳～	175	9.1%	41.1%	38.9%	9.2%	1.7%	100.0%	50.2%	48.1%



■ 全体

「感じる」10.9%、「どちらかといえば感じる」45.4%を合わせた「感じる計」は 56.3%に対し、「どちらかといえば感じない」33.9%、「感じない」9.2%を合わせた「感じない計」は 43.1%と、「感じる計」が 13.2 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 56.3%と最も多く、次いで令和 6 年度が 51.4%、令和5年度が 46.2%となっており、年々増加傾向にあります。

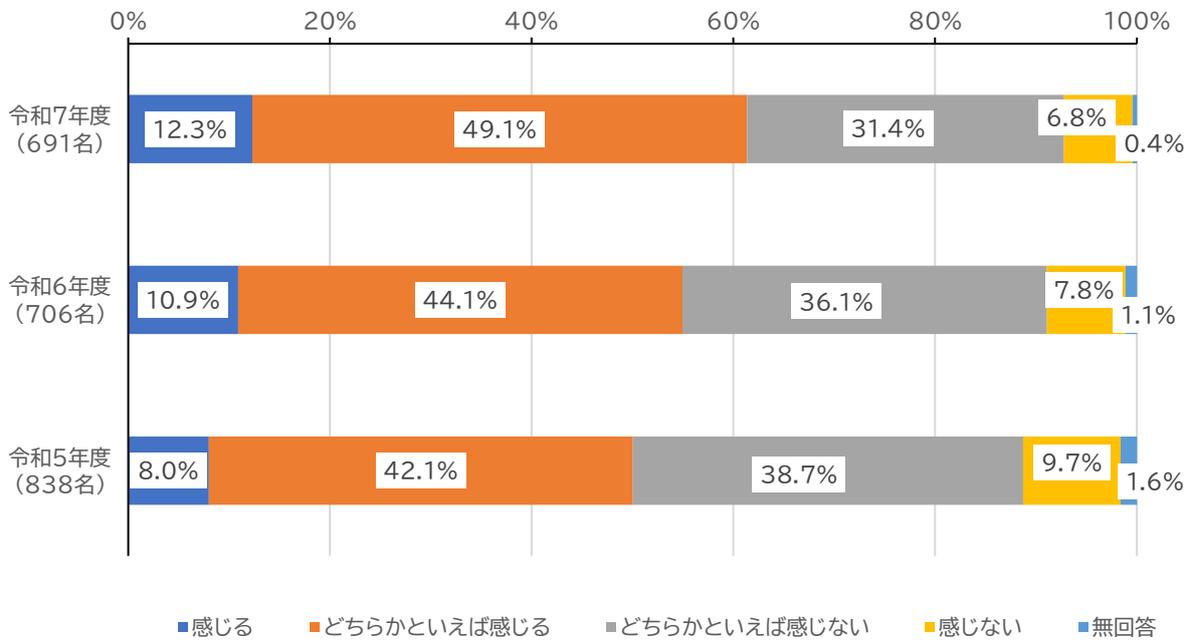
■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で見ると、35～64歳が 59.0%と最も多く、次いで 18～34歳が 56.5%、65歳以上が 50.2%となっています。

【問8】

上記の魅力情報の発信や、地域住民や企業などとの協働による取組により「あべのが魅力あるまちとなっている」と感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	12.3%	49.1%	31.4%	6.8%	0.4%	100.0%	61.4%	38.2%
年齢別	18～34 歳	131	16.0%	54.2%	23.7%	6.1%	0.0%	100.0%	70.2%	29.8%
	35～64 歳	385	12.7%	50.9%	29.9%	6.2%	0.3%	100.0%	63.6%	36.1%
	65 歳～	175	8.6%	41.1%	40.6%	8.5%	1.2%	100.0%	49.7%	49.1%



■ 全体

「感じる」12.3%、「どちらかといえば感じる」49.1%を合わせた「感じる計」は 61.4%に対し、「どちらかといえば感じない」31.4%、「感じない」6.8%を合わせた「感じない計」は 38.2%と「感じる計」が、23.2 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 61.4%と最も多く、次いで令和 6 年度が 55.0%、令和 5 年度は 50.1%となっており、年々増加傾向にあります。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 70.2%と最も多く、次いで 35～64 歳が 63.6%、65 歳以上が 49.7%となっており、年齢が低いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

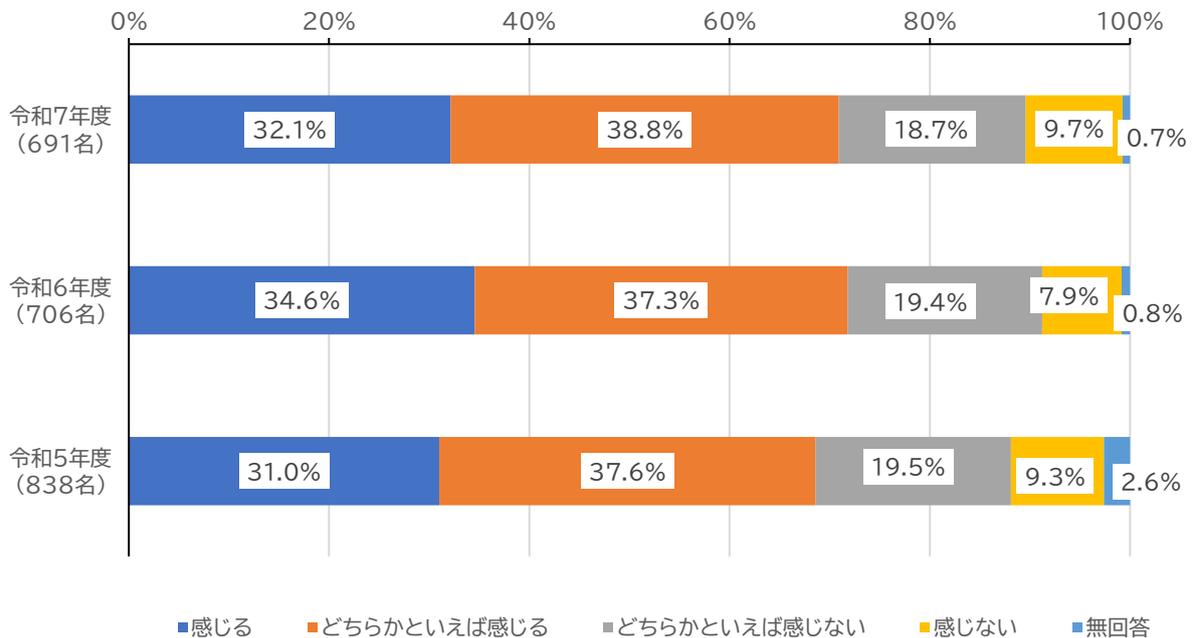
6.あべの筋の魅力づくり

阿倍野区のメインストリート「あべの筋」に、緑が少ない街をより緑豊かにするため緑化スペースを確保しました。また、都市景観の向上をめざし、騒音を減らし、ヒートアイランド現象による気温上昇を和らげることを目的に、あべの筋を拡幅する工事の際に阪堺電車の線路の間(軌道敷)を芝生化しました。今後も引き続き、この芝生を管理しながら緑化を保っていきます。

【問9】

あなたは、阪堺電車の軌道部分の芝生について、「まちの魅力の一つである」と感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	32.1%	38.8%	18.7%	9.7%	0.7%	100.0%	70.9%	28.4%
年齢別	18～34 歳	131	28.2%	33.6%	21.4%	16.8%	0.0%	100.0%	61.8%	38.2%
	35～64 歳	385	32.0%	41.0%	18.7%	7.8%	0.5%	100.0%	73.0%	26.5%
	65 歳～	175	35.4%	37.7%	16.6%	8.6%	1.7%	100.0%	73.1%	25.2%



■ 全体

「感じる」32.1%、「どちらかといえば感じる」38.8%を合わせた「感じる計」は 70.9%に対し、「どちらかといえば感じない」18.7%、「感じない」9.7%を合わせた「感じない計」は 28.4%と、「感じる計」が 42.5 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で経年変化を見ると、令和 6 年度が 71.9%と最も多く、次いで令和 7 年度が 70.9%、令和 5 年度が 68.6%となっています。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、65歳以上が73.1%と最も多く、次いで35～64歳が73.0%、18～34歳が61.8%となっており、年齢が高いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

7.みんなで支え合う地域づくりと相談支援体制づくり

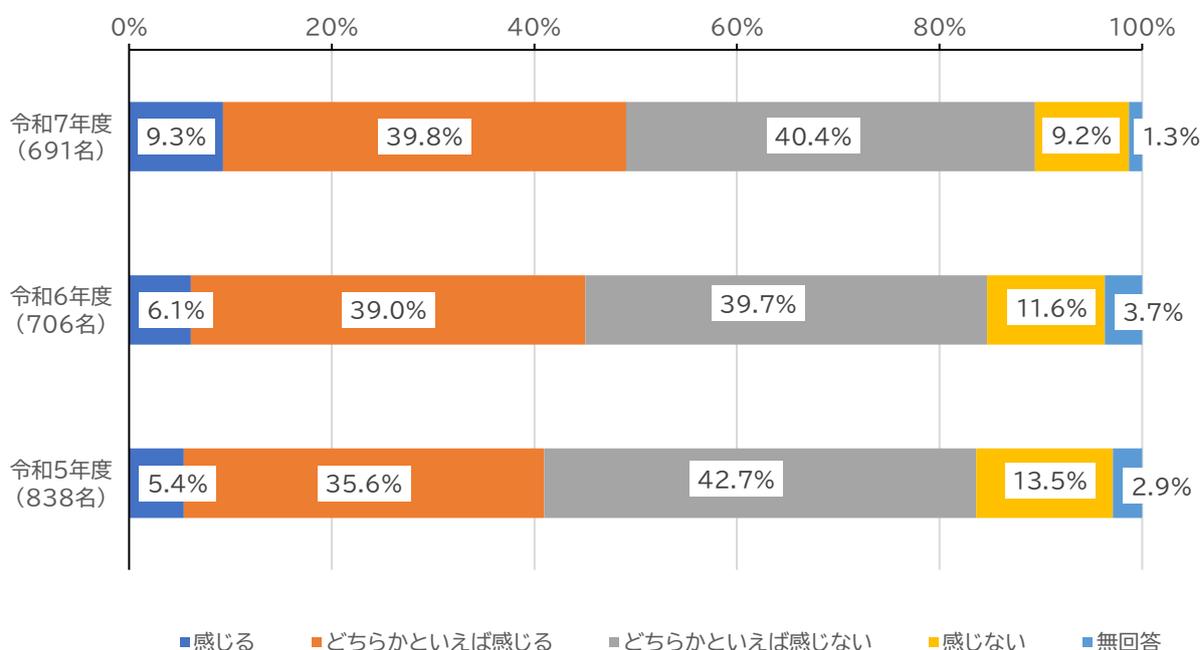
阿倍野区では、「見守り相談室」を設け、各地域に「地域福祉コーディネーター」を配置しています。このコーディネーターは、日常生活や災害時に支援や見守りが必要な方(要援護者)の実態を把握することに努め、地域の見守り活動や福祉サービスにつなぐ役割を果たしています。

また、複合的な課題を抱える世帯への支援についても、相談支援機関・地域・行政が一体となって課題解決に向けて取り組んでいます。

【問10】

地域で支援を必要としている人に、必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	9.3%	39.8%	40.4%	9.2%	1.3%	100.0%	49.1%	49.6%
年齢別	18～34 歳	131	13.7%	46.6%	29.0%	9.9%	0.8%	100.0%	60.3%	38.9%
	35～64 歳	385	8.1%	37.1%	44.4%	9.4%	1.0%	100.0%	45.2%	53.8%
	65 歳～	175	8.6%	40.5%	40.0%	8.6%	2.3%	100.0%	49.1%	48.6%



■ 全体

「感じる」9.3%、「どちらかといえば感じる」39.8%を合わせた「感じる計」は 49.1%に対し、「どちらかといえば感じない」40.4%、「感じない」9.2%を合わせた「感じない計」は 49.6%と、「感じる計」が 0.5 ポイント下回っています。

■ 経年変化

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」で比較すると、令和 7 年度は 49.1%と最も多く、次いで令和 6 年度が 45.1%、令和 5 年度が 41.0%となっており、年々増加傾向にあります。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 60.3%と最も多く、次いで 65 歳以上が 49.1%、35～64 歳が 45.2%となっています。

8.子育て支援事業の充実

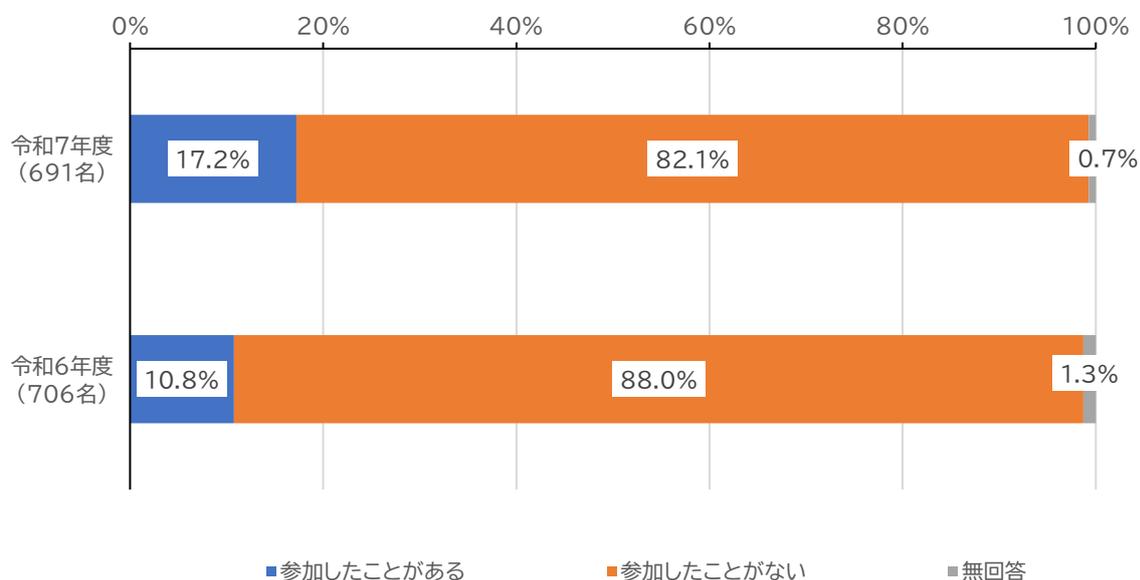
阿倍野区では、子どもの保護者などを対象に子育て相談を行っています。また、子育てに関する情報を発信するとともに、親子が参加できるイベントや子育て講演会を開催しています。

さらに、子どもの発達を気にされている保護者向けの勉強会や、親子の居場所づくり、専門家によるカウンセリングやアドバイスを行っています。また、専門的な知識を持つ職員が、学校にうまくなじめないなどの悩みを持つ子どもや保護者からの相談を受けています。

【問11】

あなたは、区で行われている子育て支援の事業(親子フェスタや子育て講演会など)、または子育てカウンセリング事業に参加したことがありますか。

		回答者数	参加したことがある	参加したことがない	無回答	計
全体		691	17.2%	82.1%	0.7%	100.0%
年齢別	18～34 歳	131	13.0%	87.0%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	385	24.7%	74.8%	0.5%	100.0%
	65 歳～	175	4.0%	94.3%	1.7%	100.0%



■ 全体

「参加したことがある」が 17.2%、「参加したことがない」が 82.1%となっており、「参加したことがある」が 64.9 ポイント下回っています。

■ 経年変化

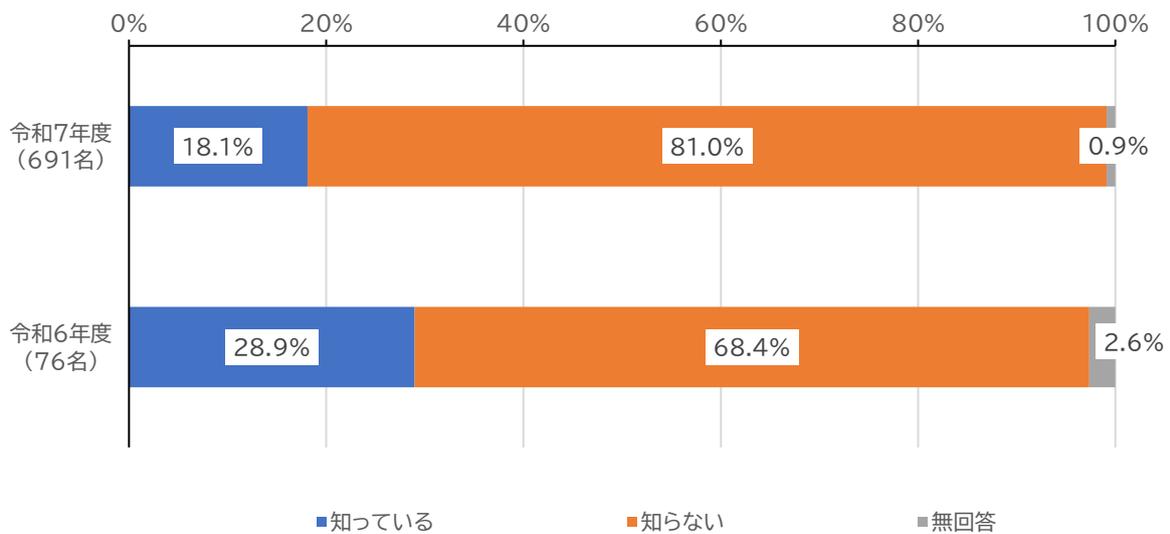
「参加したことがある」で経年変化を見ると、令和7年度が 17.2%と、令和6年度の 10.8%よりも 6.4 ポイント増加しています。

■ 年齢別

「参加したことがある」を年齢別に見ると、35～64歳が 24.7%と最も多く、次いで18～34歳が 13.0%、65歳以上が 4.0%となっています。

【問12】区役所で不登校に関する相談ができることを知っていますか。

		回答者数	知っている	知らない	無回答	計
全体		691	18.1%	81.0%	0.9%	100.0%
年齢別	18～34 歳	131	19.1%	80.9%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	385	17.9%	81.6%	0.5%	100.0%
	65 歳～	175	17.7%	80.0%	2.3%	100.0%



※令和6年度は問11で「参加したことがある」と答えた76名を母数にした集計です。

■ 全体

「知っている」が18.1%、「知らない」が81.0%となっており、「知っている」が62.9ポイント下回っています。

■ 経年変化

「知っている」で経年変化を見ると、令和7年度が18.1%と、令和6年度の28.9%よりも10.8ポイント減少しています。

■ 年齢別

「知っている」を年齢別に見ると、18～34歳が19.1%と最も多く、次いで35～64歳が17.9%、65歳以上が17.7%となっており、年齢が低いほど「知っている」方の割合が高くなっています。

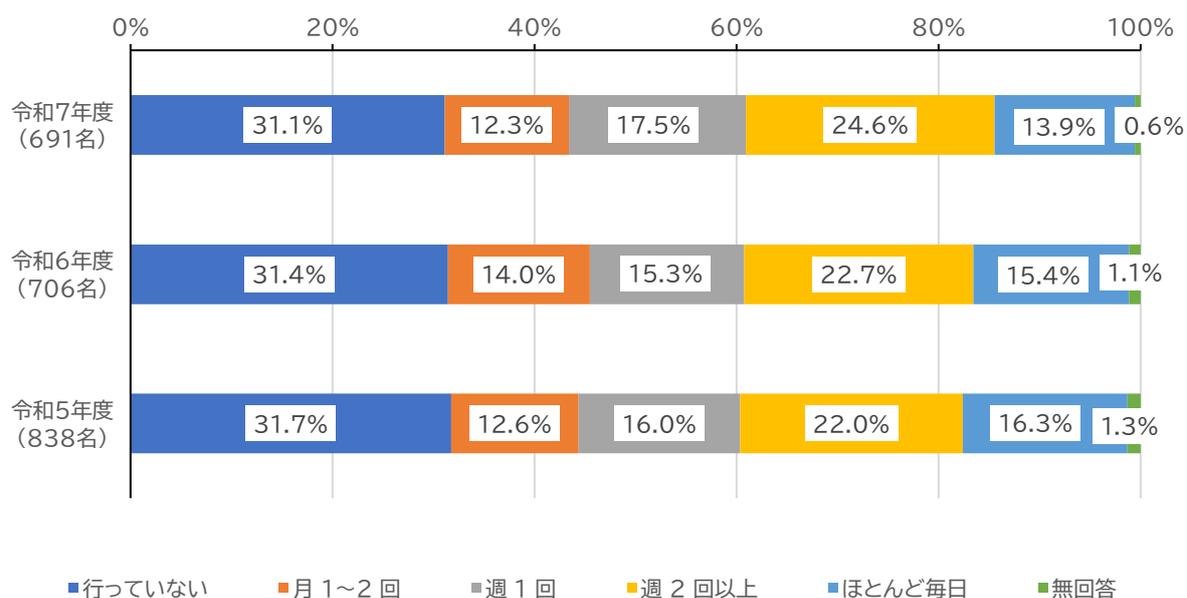
9.地域ぐるみで、誰もが元気に暮らせる健康づくり

阿倍野区では、区民一人ひとりが健康を大切にする意識を高め、自ら健康づくりに取り組めるよう支援しています。ウォーキングサポーターや老人クラブ連合会などと協働し、ウォーキングイベントや「いきいき百歳体操」などを行っています。

【問13】

あなたは、1回30分以上の運動をどれくらいの頻度で行っていますか。

	回答者数	行っていない	月1~2回 (a)	週1回 (b)	週2回以上 (c)	ほとんど毎日 (d)	無回答	計	行っている計 (a+b+c+d)	
全体	691	31.1%	12.3%	17.5%	24.6%	13.9%	0.6%	100.0%	68.3%	
年齢別	18~34 歳	131	29.8%	16.8%	16.0%	24.4%	13.0%	0.0%	100.0%	70.2%
	35~64 歳	385	34.3%	14.3%	17.9%	21.0%	12.0%	0.5%	100.0%	65.2%
	65 歳~	175	25.1%	4.6%	17.7%	32.5%	18.9%	1.1%	100.0%	73.7%



■ 全体

1回30分以上の運動を行っている頻度は「週2回以上」が24.6%と最も多く、次いで「週1回」が17.5%、「ほとんど毎日」が13.9%、「月1~2回」が12.3%となっています。また、「月1~2回」・「週1回」・「週2回以上」・「ほとんど毎日」を合わせた「行っている計」は68.3%で、「行っていない」の31.1%より37.2ポイント高くなっています。

■ 経年変化

1回30分以上の運動を行っている頻度の経年変化を「月1~2回」・「週1回」・「週2回以上」・「ほとんど毎日」を合わせた「行っている計」で見ると、令和7年度が68.3%と最も多く、次いで令和6年度が67.4%、令和5年度が66.9%となっており、年々増加傾向にあります。

「行っていない」では、令和5年度が31.7%と最も多く、次いで令和6年度が31.4%、令和7年度が31.1%となっており、年々減少傾向にあります。

■ 年齢別

1回30分以上の運動を行っている頻度の年齢別を「月1~2回」・「週1回」・「週2回以上」・「ほとんど毎日」を合わせた「行っている計」で見ると、65歳以上が73.7%と最も多く、次いで18~34歳が70.2%、35~64歳が65.2%となっています。

「行っていない」では、35~64歳が34.3%と最も多く、次いで18~34歳が29.8%、65歳以上が25.1%となっています。

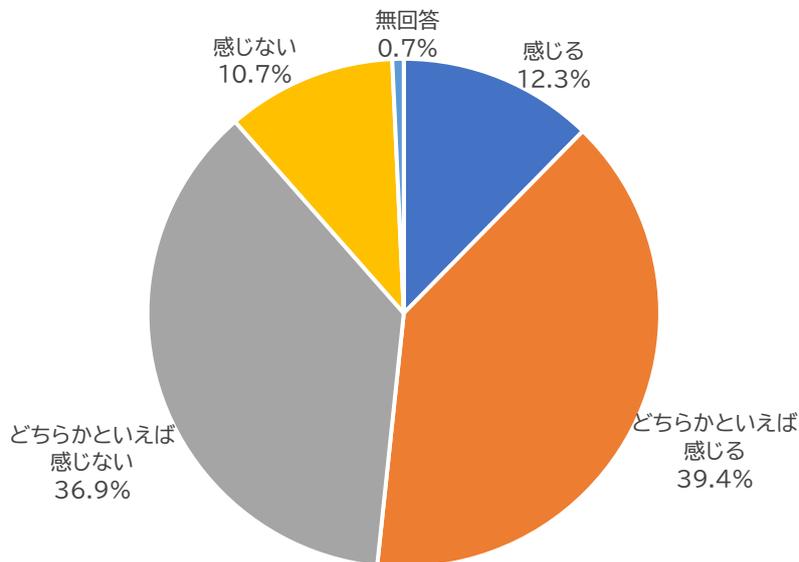
10.官民連携の一層の強化

阿倍野区では、企業・大学などの機関と連携して、お互いの強みを活かすことで、阿倍野区がめざすまちの実現に向けて、「地域の活性化」や「区民サービスの向上」に努めています。例えば、区民等を対象にしたスポーツ教室の開催や、トップアスリートやコーチの学校・地域への派遣、あべのカーニバルなど区役所が実施するイベントへの参画が行われています。

【問14】

あなたは、企業・大学などとの連携により、地域の活性化や区民サービスの向上につながっていると感じますか。

		回答者数	感じる (a)	どちらか といえば 感じる (b)	どちらか といえば 感じない (c)	感じない (d)	無回答	計	感じる 計 (a+b)	感じない 計 (c+d)
全体		691	12.3%	39.4%	36.9%	10.7%	0.7%	100.0%	51.7%	47.6%
年齢別	18～34 歳	131	18.3%	39.7%	26.0%	16.0%	0.0%	100.0%	58.0%	42.0%
	35～64 歳	385	11.9%	40.0%	38.2%	9.4%	0.5%	100.0%	51.9%	47.6%
	65 歳～	175	8.6%	37.7%	42.3%	9.7%	1.7%	100.0%	46.3%	52.0%



■ 全体

「感じる」12.3%、「どちらかといえば感じる」39.4%を合わせた「感じる計」は 51.7%に対し、「どちらかといえば感じない」36.9%、「感じない」10.7%を合わせた「感じない計」は 47.6%と、「感じる計」が 4.1 ポイント上回っています。

■ 年齢別

「感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 58.0%と最も多く、次いで 35～64 歳が 51.9%、65 歳以上が 46.3%となっており、年齢が低いほど「感じる計」の割合が高くなっています。

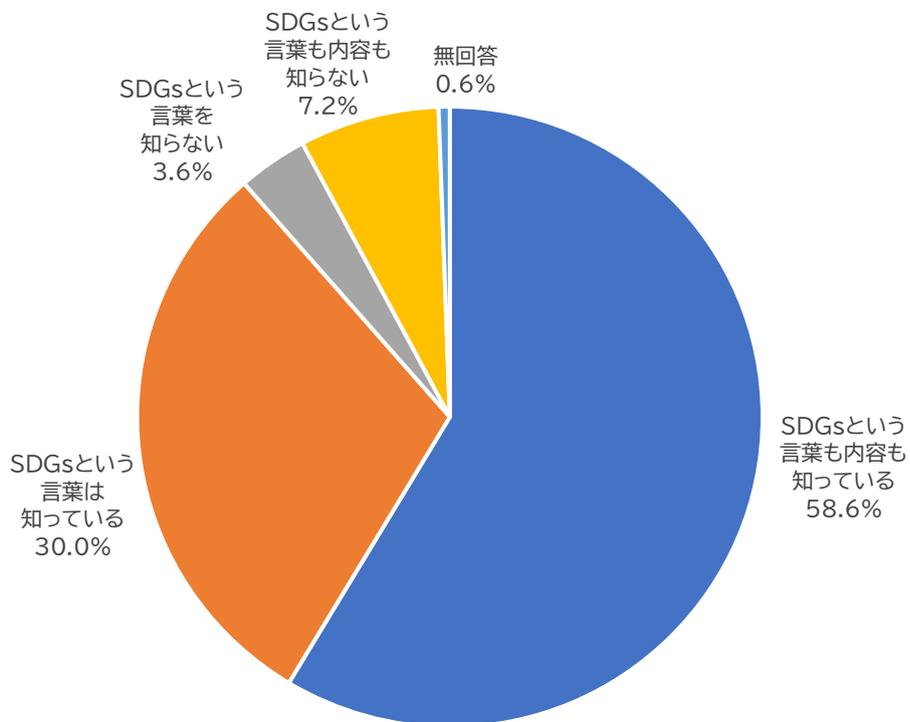
11.SDGs の推進

阿倍野区では、SDGs の目標達成に向けて、さまざまな周知や啓発に努めています。

【問15】

あなたは、「SDGs」を知っていますか。

		回答者数	SDGs という 言葉も 内容も 知っている (a)	SDGs という 言葉は 知っている (b)	SDGs という 言葉を 知らない (c)	SDGs という 言葉も 内容も 知らない (d)	無回答	計	知っている 計 (a+b)	知らない 計 (c+d)
全体		691	58.6%	30.0%	3.6%	7.2%	0.6%	100.0%	88.6%	10.8%
年齢別	18～34 歳	131	64.1%	30.5%	3.1%	2.3%	0.0%	100.0%	94.6%	5.4%
	35～64 歳	385	64.4%	29.4%	0.5%	5.5%	0.2%	100.0%	93.8%	6.0%
	65 歳～	175	41.7%	30.9%	10.8%	14.9%	1.7%	100.0%	72.6%	25.7%



■ 全体

「SDGsという言葉も内容も知っている」58.6%、「SDGsという言葉は知っている」30.0%を合わせた「知っている計」は88.6%に対し、「SDGsという言葉を知らない」3.6%、「SDGsという言葉も内容も知らない」7.2%を合わせた「知らない計」は10.8%と、「知っている計」が77.8ポイント上回っています。

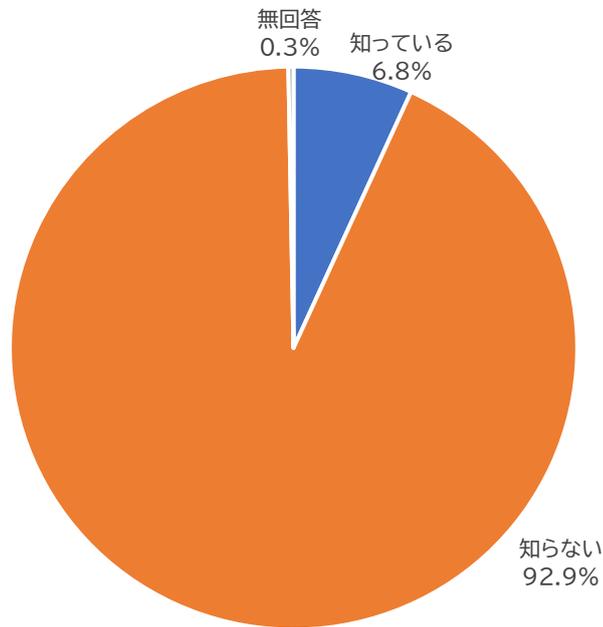
■ 年齢別

「SDGsという言葉も内容も知っている」「SDGsという言葉は知っている」を合わせた「知っている計」を年齢別で比較すると、18～34歳が94.6%と最も多く、次いで35～64歳が93.8%、65歳以上が72.6%となっており、年齢が低いほど「知っている計」の割合が高くなっています。

【問16】

大阪市では、区ごとの特性や実情と親和性の高い SDGs ゴールに焦点をあて普及啓発に取り組むこととしており、阿倍野区では、「わが区に親和性のある SDGs ゴール」として「4:質の高い教育をみんなに」を選定しています。あなたは、阿倍野区の「わが区に親和性のある SDGs ゴール」を知っていますか。

		回答者数	知っている	知らない	無回答	計
全体		691	6.8%	92.9%	0.3%	100.0%
年齢別	18～34 歳	131	8.4%	91.6%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	385	5.7%	94.0%	0.3%	100.0%
	65 歳～	175	8.0%	91.4%	0.6%	100.0%



■ 全体

「知っている」が 6.8%、「知らない」が 92.9%となっており、「知っている」が 86.1 ポイント下回っています。

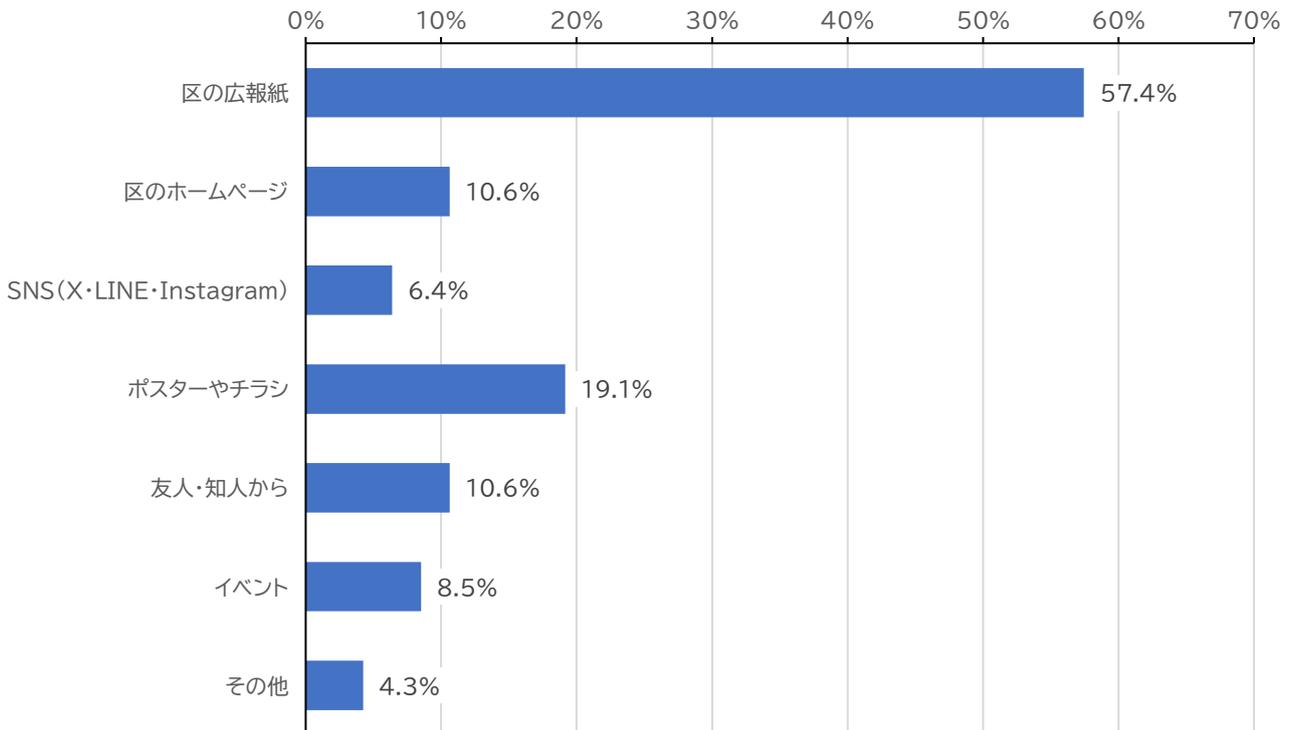
■ 年齢別

「知っている」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 8.4%と最も多く、次いで 65 歳以上が 8.0%、35～64 歳が 5.7%となっています。

【問17】

問16で「1 知っている」を選択された方におうかがいします。あなたは、阿倍野区の「わが区に親和性のあるSDGsゴール」をどのように知りましたか。(複数回答可)

		回答者数	区の広報紙	区のホームページ	SNS(X・LINE・Instagram)	ポスターやチラシ	友人・知人から	イベント	その他	無回答
全体		47	57.4%	10.6%	6.4%	19.1%	10.6%	8.5%	4.3%	0.0%
年齢別	18～34 歳	11	36.4%	9.1%	9.1%	18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%
	35～64 歳	22	63.6%	9.1%	9.1%	13.6%	9.1%	4.5%	0.0%	0.0%
	65 歳～	14	64.3%	14.3%	0.0%	28.6%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%



■ 全体

「区の広報紙」が57.4%と最も多く、次いで「ポスターやチラシ」が19.1%、「区のホームページ」「友人・知人から」が10.6%、「イベント」が8.5%、「SNS(X・LINE・Instagram)」が6.4%、「その他」が4.3%となっています。

「その他」では、「別のアンケートで知った」などの回答があります。

■ 年齢別

年齢別で比較すると、すべての年齢で「区の広報紙」が最も多く、18～34 歳が 36.4%、35～64 歳が 63.6%、65 歳以上が 64.3%となっています。

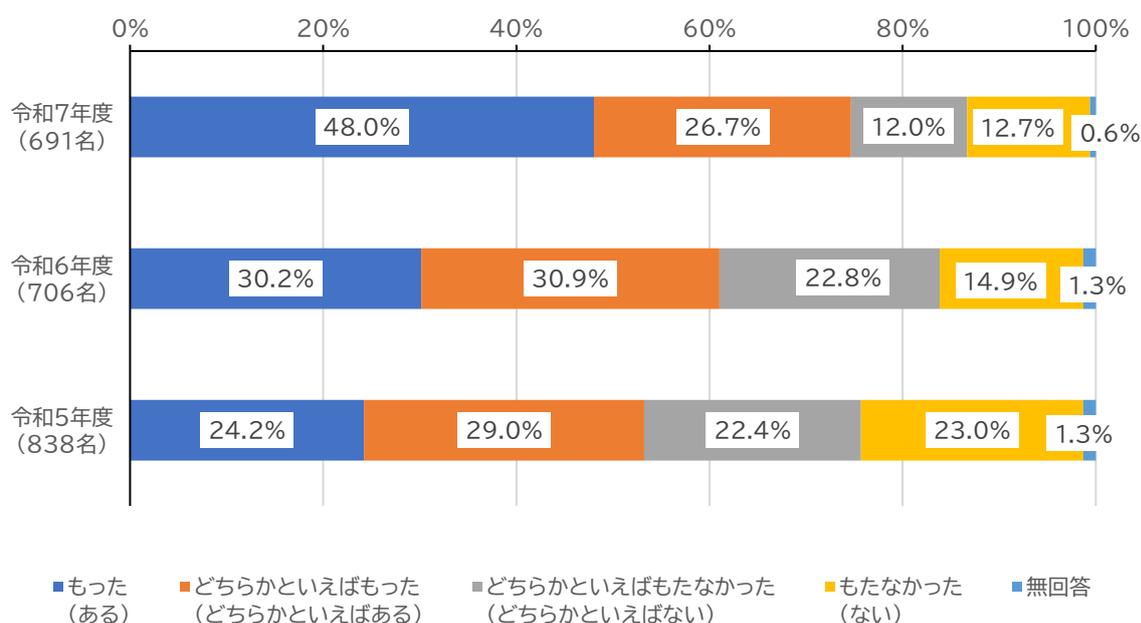
12.「2025年大阪・関西万博」について

「2025年大阪・関西万博」が4月から10月にかけて開催されました。阿倍野区では、万博に一人でも多くの方が興味・関心をもって来場していただくため、様々な取組を行ってまいりました。

【問18】

あなたは、「2025年大阪・関西万博」に興味・関心を持ちましたか。

		回答者数	もった (a)	どちらか といえば もった (b)	どちらか といえば もたな かった (c)	もたな かった (d)	無回答	計	もった 計 (a+b)	もたな かった 計 (c+d)
全体		691	48.0%	26.7%	12.0%	12.7%	0.6%	100.0%	74.7%	24.7%
年齢別	18～34 歳	131	57.3%	25.9%	6.9%	9.9%	0.0%	100.0%	83.2%	16.8%
	35～64 歳	385	50.4%	25.7%	12.2%	11.4%	0.3%	100.0%	76.1%	23.6%
	65 歳～	175	36.0%	29.1%	15.4%	17.7%	1.7%	100.0%	65.1%	33.1%



※令和6年度及び令和5年度は、「あなたは『2025年大阪・関西万博』に興味・関心がありますか」という設問に対する集計です。

■ 全体

「もった」48.0%、「どちらかといえばもった」26.7%を合わせた「もった計」は 74.7%に対し、「どちらかといえばもたなかった」12.0%、「もたなかった」12.7%を合わせた「もたなかった計」は 24.7%と、「もった計」が 50.0 ポイント上回っています。

■ 経年変化

「もった」「どちらかといえばもった」を合わせた「もった計」で経年変化を見ると、令和 7 年度が 74.7%と最も多く、次いで令和6年度が 61.1%、令和5年度が 53.2%となっており、年々増加傾向にあります。

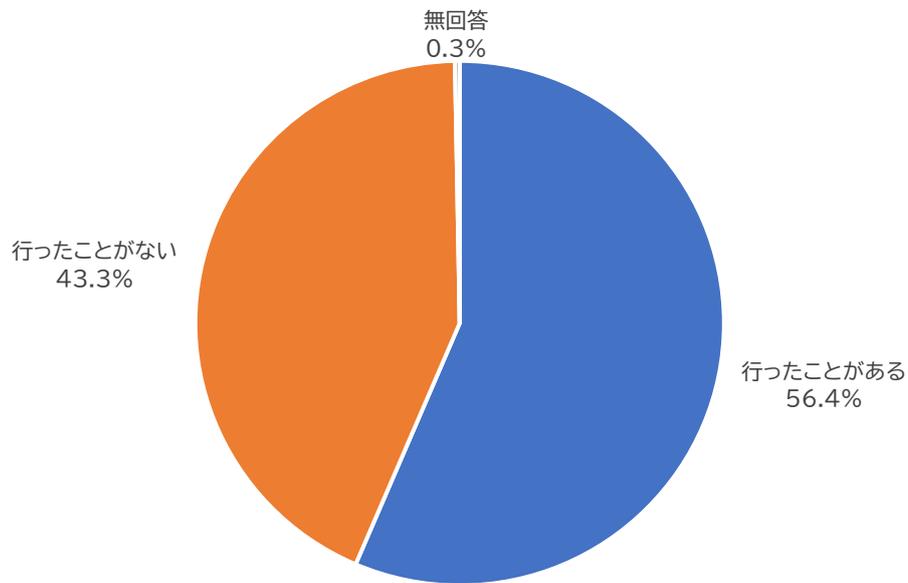
■ 年齢別

「もった」「どちらかといえばもった」を合わせた「もった計」を年齢別で比較すると、18～34 歳が 83.2%と最も多く、次いで 35～64 歳が 76.1%、65 歳以上が 65.1%となっており、年齢が低いほど興味・関心を「もった計」の割合が高くなっています。

【問19】

あなたは「2025年大阪・関西万博」会場に行ったことがありますか。

		回答者数	行ったことがある	行ったことがない	無回答	計
全体		691	56.4%	43.3%	0.3%	100.0%
年齢別	18～34 歳	131	57.3%	42.7%	0.0%	100.0%
	35～64 歳	385	61.0%	38.7%	0.3%	100.0%
	65 歳～	175	45.7%	53.7%	0.6%	100.0%



■ 全体

「行ったことがある」が 56.4%、「行ったことがない」が 43.3%となっており、「行ったことがある」が 13.1ポイント上回っています。

■ 年齢別

「行ったことがある」を年齢別で比較すると、35～64 歳が 61.0%と最も多く、次いで 18～34 歳が 57.3%、65 歳以上が 45.7%となっています。

以上、みなさまからいただいたご意見をふまえ、さらなる改善に向けて今後の区政に活かしてまいります。